

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月14日

事業所名

あしたばデイヒルズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3	宿題のスペースと運動のスペースを分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	6			適切である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	段差を利用して運動している。	バリアフリーにはなっていないが、スロープを用意してバリアフリー化は可能。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	毎日の日誌記入や個別支援計画書作成に全職員が関わっている。	職員間で情報を共有し、支援目標達成について話し合い、日々意見交換をしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者会、アンケートともに年1回実施している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			HPで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	学校の担任や相談事業所等の助言や意見を参考にしている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		月1回、勉強会を実施している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		保護者のニーズを取り入れて計画書を作成している。	子どもの状態を見て職員間で定期的に話し合っている。保護者から頂いた意見は職員間で共有している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	発達に合った関わりで支援している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			職員間で話し合い共有する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		季節に合わせた制作や活動をしている。	制作や運動プログラム等、こどもの発達に合わせて課題を変えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		その都度課題を決めて取り組んでいる。	長期休暇に合わせて皆で大きな制作物を作ったり、イベント等を企画している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		職員間で話し合い、計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		送迎前に職員間で共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	日誌の記入をもとに振り返りを行っている。	その場に居なかった職員(公休等で)にも忘れず共有する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日誌に正しく記入している。	日誌、ヒヤリハットなど活用する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		半年ごとのモニタリングで話し合い、見直している。	日々の支援の中で気づいた事があれば反映する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6		児童の発達にあった支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	サービス担当者会議があれば参加するが直近ではない。	サービス担当者会議があれば児童発達管理責任者が参加する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		学校送迎時に情報を共有している。	保護者から情報を得られない場合もあり、学校との情報共有は欠かせない。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2		医療的ケアが必要な子どもは居ないが、アレルギーや服薬等、保護者に伺って対応している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	相談事業所からの情報を参考している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3		相談事業所と共有している。依頼があれば移行先の事業所にも保護者の同意を得たうえで提供する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	5		機会があれば参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5		あしたばローゼル主催の音楽発表会・スポーツフェスティバル等で交流する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	4	グロウスの会に参加している。	機会があれば参加したい。参加希望の人が参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時にその日の児童の様子や活動内容を報告している。	連絡ノート、電話、メールなども活用する。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2	必要がある場合は行っている。	気になる事があれば保護者に伝える様にしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		その都度行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		年に一度作品展と保護者会を行っている。	全ての保護者がそろう機会は無かったので、必要があれば検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			必要に応じスタッフ間で話し合い、迅速に対応するよう努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		年1回会報を発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	5	1	充分注意している。	勉強会の内容等を伝え、充分注意してもらう。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		送迎時などにコミュニケーションを取る様している。	お互い分かり合える様話し合う。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		以前は地域の老人施設等に出向き交流をはかっていたが、最近はできていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		マニュアルを作成し、契約時に保護者に配布している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		火災、地震共に避難訓練を行っている。	日頃から課題を話し合うようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			月一度の事業所間ミーティングで話し合っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1	身体拘束を行わなければならない児童が居ない。	必要なケースがあればスタッフ間で十分に話し合い、保護者の意見も参考にして決定する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			医師の指示書の提出は無いが、保護者からの情報を参考にしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		共有している。	安全に過ごせる様務める。